

都市再生整備計画 事後評価シート
美瑛中心市街地区

平成31年3月

北海道美瑛町

様式2-1 評価結果のまとめ


都道府県名	北海道		市町村名	美瑛町		地区名	美瑛中心市街地区			面積	190.4ha		
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	1,840 百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画から位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(丸山通り(歩道拡幅))、地域生活基盤施設(丸山通り(ポケットスペース)・中心市街地案内サイン(※名称変更)・美瑛駅前広場)、高質空間形成施設(丸山通り(照明施設)・丸山通り(ストリートファニチャー)・丸山通り(歩道舗装)・丸山通り(無電柱化))、既存建造物活用事業(地域交流センター(商店街コミュニティ施設))										
		提案事業	地域創造支援事業(地域資源活用交流施設(郷土資料館活用)・丸山通り(無電柱化-引込管路設置※名称変更))										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名 ①地域生活基盤施設(公共イベント広場) ②地域生活基盤施設(美瑛駅西口公共駐車場)			削除/追加の理由 ①H25年度に暫定的に実施した町単独事業による整備で一定の機能が確保できているため。②駅前既存駐車場で指標が達成できる見通しがたったため。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 影響なし				
		提案事業											
	新たに追加した事業	基幹事業	①高質空間形成施設(丸山通り(カラー舗装)) ②地域生活基盤施設(本通り(ポケットスペース))			①丸山通り地区への誘客を目的として、歩行者及びドライバーの視覚的誘導を促進するため。②中心市街地を周遊する観光客の滞在時間増加とサービス向上を図るため。			影響なし				
提案事業													
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成30年度		変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	丸山通りの歩行者数	人/日	524	H24	580	H30	モニタリング	597	○	ありなし	丸山通り線を歩きやすい歩道空間や無電柱化等の高質空間へ整備したことで、歩行者数が増加した。	
	指標2	中心市街地への入込数	人/年	387,294	H24	426,000	H30		455,602	○	ありなし	道路整備や各施設への案内サイン等の整備により、観光客等の周遊性があり、中心市街地入込数が増加した。	平成31年4月頃
	指標3	地域交流センターの利用者数	人/年	12,761	H24	16,500	H30		127,530	○	ありなし	新たなスタイルの拠点施設を整備し、町の魅力の発信と地域交流が促進され、利用者数が大幅に増加した。	平成31年4月頃
	指標4										ありなし		
	指標5										ありなし		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	丸山通り線沿道の既存飲食店の昼食時営業店舗数	店舗	2	H26				5			歩行者交通量の増加に伴い沿道の既存飲食店3店舗がH27、28に新たに昼食時の営業を開始した。	
	その他の数値指標2	地域資源活用交流施設の利用者数	人/年	400	H23				9,311(H29)			郷土学の情報発信施設として、町民だけでなく、町外の方の利用も増加した。	
	その他の数値指標3												
4) 定性的な効果発現状況	丸山通り線沿道に飲食店2店舗が新規開店。												
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況									今後の対応方針等	
	モニタリング	事業実施に伴う課題整理や事業の調整について、庁舎内検討委員会等で検討を行った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた						●		各指標の推移を定期的に確認し、整備された施設の活用状況について、引き続き庁舎内組織にて協議検討する。		
	住民参加プロセス	「住み良い美瑛をみんなでつくる条例」に基づくまちづくり委員会による事業評価(中間評価)を実施。	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						●		施設の在り方や、活用方法について、住民意見を取り入れる体制を継続する。		
持続的なまちづくり体制の構築	庁舎内組織やまちづくり委員会等で協議し、新規事業の模索、展開を図るための体制を構築。	都市再生整備計画に記載し、実施できた						●		事業終了後もまちづくり委員会を中心に、継続的に議論していく。			

様式2-2 地区の概要


美瑛中心市街地区(北海道上川郡美瑛町) 都市再生整備計画事業の成果概要


まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:美しい丘のまちで次代においても安心した暮らしができる活気のある市街地を再生する。 目標1-丸山通り地区への誘客を促進し、交流人口の増加による中心市街地全体の活性化を図るための良質な空間を整備する。 目標2-中心市街地への誘客を可能とする施設整備を推進し、地域コミュニティに負荷の少ない環境を整備する。 目標3-新たなスタイルの拠点施設を整備し、本町の真の魅力の発信と地域交流の推進を図る。	丸山通りの歩行者数	単位:人/日	524 H24	580 H30	597 H30
	中心市街地への入込数	単位:人/年	387,294 H24	426,000 H30	455,602 H30
	地域交流センターの利用者数	単位:人/年	12,761 H24	16,500 H30	127,530 H30
	丸山通り線沿道の既存飲食店の昼食時営業店舗数	単位:店舗	2 H26	-	5 H30
	地域資源活用交流施設の利用者数	単位:人/年	400 H23	-	9,311 H29

丸山通り線




本通りポケットスペース






地域交流センター



地域資源活用交流施設



都市再生整備計画
■基幹事業
地域生活基盤施設(広場)

都市再生整備計画
■基幹事業
地域生活基盤施設(広場)
本通りポケットスペース

都市再生整備計画
■基幹事業
地域生活基盤施設(情報板)
中心市街地案内サイン

都市再生整備計画
■基幹事業
高質空間形成施設(緑化施設等)
丸山通り照明施設
丸山通りストリートファニチャー
丸山通りカラー舗装
丸山通り歩道舗装

都市再生整備計画
■基幹事業
高質空間形成施設(電線類地下埋設施設)
丸山通り無電柱化

都市再生整備計画
■基幹事業
既存建造物活用事業(高次都市施設)

都市再生整備計画
■基幹事業
地域生活基盤施設(広場)
丸山通りポケットスペース

都市再生整備計画事業
□提案事業
地域創造支援事業
地域資源活用交流施設

都市再生整備計画事業
□提案事業
地域創造支援事業
丸山通り無電柱化-引込管路設置

まちの課題の変化

- ・道路空間や拠点施設等の整備により、観光客の周遊性が広がり、交流人口の増加が図られた。
- ・観光、交流人口の増加に伴い、アジア圏を中心とした外国人観光客も増加しており、インバウンド対策が必要となっている。特に、ハイシーズンにおける飲食業受け入れ体制の強化。
- ・飲食店の店舗数増加や営業時間の拡大(昼食時も営業)に伴い、商店街を沿道に抱える道路空間として、駐車場不足が懸念される。特にバスなどの大型車が駅前付近に滞留しており、交通の妨げとなるのが懸念される。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 観光、交流人口促進のための環境づくり
- 良質な街並み空間や拠点施設等を整備したことで、指標値は満足しているが事業完了後も、利用状況に注視し、継続して多くの方に親しまれ、利用される仕掛けを模索していく。
- 賑わいづくりの核となる市街地商店街の活性化
 - ・美瑛の玄関口である美瑛駅周辺の商店街の活性化のため、関係機関と連携し観光客を中心とした受入れ体制及び情報発信を強化していく。特にアジア圏を中心とした外国人観光客も増加していることからインバウンド対策の強化が必要となっている。
- 安全、安心な環境整備
 - ・道路空間や周辺の施設整備に伴い、丸山通り線への周遊が促進された。また、飲食店の店舗数の増加や営業時間の拡大等に伴い、今後も多くの利用が期待される。一方で、商店街を抱える道路空間として、駐車場不足が懸念されるため、空き地等を活用した公共駐車場整備等を計画していく。
 - ・市街地を中心として、通学路等の歩道整備、修繕を計画していく。